

オプション倶楽部 OP売坊戦略コース



早期割引中！
充実の180日間（2022年5月2日～2022年10月31日）

募集枠30名限定

99%の確率で年率15%の収益を安定的に稼ぐことを目的としています。
成功へのカギは確率統計とリスク管理だけ！（エクセルシート付き）

<学習プログラム>

1. 学習プログラム（動画・全56回）
2. 週次レポート対象市場：日経225オプション・米株オプション
3. 月次セミナー
4. アラートメール（暴騰・暴落注意報など）
5. 個別質問掲示板
6. リスク管理エクセルシート
7. ワンポイントレッスン（YouTubeで一般公開）

入門セミナー満員御礼！



日経225オプショントレード入門セミナー 4月23日（土）オンライン開催

限定30名様募集

オプション倶楽部会員様はご参加できます

■オプション取引の主な優位点

- 1.基本的に毎月収益が確定する戦略をとれる。
- 2.正規分布を前提に95%や99%の勝率など確率に裏付けされた戦略
- 3.方向性に賭けるだけでなく「レンジ」での勝負ができる。

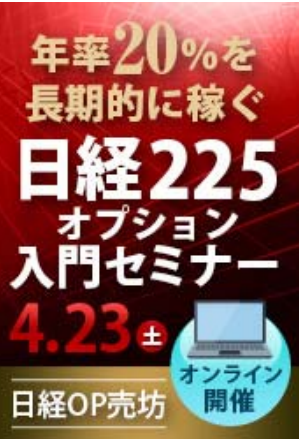
■特典プレゼント

OP売坊流「日経225CALL売り」の基礎知識』

基本知識・商品仕様、売坊流の基本戦略・相場哲学を紹介！

トレーダーズショップ

検索



マーク・ファーバー博士のレポート4月号 「現在の世界的な無秩序を理解する」



- 「紛争がさらに泥沼化する恐れ」
- 「覇権が衰退する米国のあがき」
- 「多極化を望む“残りの世界”」
- 「プロパガンダの危険性」
- 投資見解は見通しどおりに動いているセクターは、S&P500と比較すると「まだ安い」

トレーダーズショップ

検索

ラジオNIKKEI

2022年5月から【オプション倶楽部】OP売坊戦略コースの第三回が始まります。ごいっしょにオプション運用の達人を目指してみませんか？ 新規会員様は4月23日（土）の「オンライン入門セミナー」もご招待。詳しくは倶楽部HP「optionclub.net」まで！



『賢者のマーケットインサイト』資料

(2022年4月20日放送分)

- この資料は、ファイナンシャル・リテラシーの向上のみを目的として作成されたものです。
- したがって、いかなる投資勧誘の目的で作られた物ではございません。
- この資料での数値などにつきましては、信頼できる筋からの情報に基づいておりますが、その正確性を保証するものではありません。
- 投資につきましては、あくまで、自己責任でお願い申し上げます。
- 日経OP売坊は一切の責任を負いかねます。ご了承ください。

2022年5月限・6月限SQ日までの注目イベント (P.2)

<米国>

- 5月04日: FOMC政策金利
- 5月06日: 雇用統計・失業率
- 5月11日: 消費者物価指数

<欧州>

- 6月09日: ECB政策金利

<日本・世界>

- 4月22日: 消費者物価指数
- 4月28日: 日銀金融政策決定会合
- 5月16日: 企業物価指数
- 5月20日: 消費者物価指数

- 5月09日: 【ロシア】戦勝記念日
- 5月27日: 【ロシア】国債償還日

- 4月17日~: 土星・火星・金星・木星がほぼ一直線
- 6月下旬: 水星・金星・火星・木星・土星・天王星・海王星が一直線に

5月のFF金利の引き上げ幅は0.5%となる公算です。今後も雇用統計・CPI（消費者物価指数）が利上げを促すものであれば、当然、米国株に逆風となり得ます。

バイデン大統領は中間選挙前にCPIのピークアウトを目指しているでしょう



※SQ日は期近(月次・週次)の未決済建玉が清算されるためオプショントレーダーにとって区切りとなる日です。

2022年 4月

17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2022年 5月

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

5月開始の第三回新規会員様は4月23日のオンライン入門セミナーにご招待します!

2022年 6月

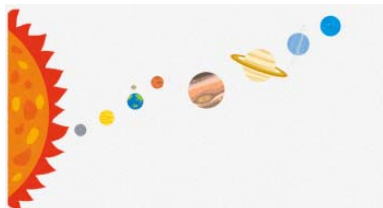
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11

「オプション倶楽部」で検索



日経225週次オプションのSQ日
日経225ミニ先物・月次オプションのSQ日
日経225先物・ミニ先物・月次オプションのSQ日
メジャーSQ

日経225週次オプションのSQ日
日経225ミニ先物・月次オプションのSQ日
日経225先物・ミニ先物・月次オプションのSQ日



注) 予定は予告なく変更される場合があります。
出所) ブルームバーグ・ロイターなどから管理人作成



OP売坊のグレイ・リノ (P.3)

サイは普段おとなしいが
怒ると、とっても怖いのだ

食料価格の高騰 [P4]

地政学的リスク

→ウクライナ問題

→中国の台湾侵攻懸念

原油価格の落ち着きどころ

インフレ加速で日米ともにスタグフレーション懸念

米国の長短金利動向と為替介入の有無 [5~6]

ドル高の米国株への影響 [P7]

TOPIX・日経平均の見直し・変更

日本の2030年問題

岸田政権と参議院選挙

中国不動産バブル崩壊懸念

日米中の財政悪化と増税

バフェット指数(株式時価総額÷名目GDP)の異常値

米国:184.1(4月14日概算)

日本:143.6(4月14日概算) など

日本がサハラ権益から撤退してしまえば、エネルギー価格の上昇をもたらす、悪影響は避けられないと思います。また、権益を中国に奪われると、再度取り戻すことは難しいでしょう



5月連休中は注目イベントも多いのでオプション売りは極力控えめに、または、持たないのが基本でしょう。

特にPUT売りは、最低でも損失限定でベアスプレッドなどにしておきたいところです。

個人的には、PUT「買い」の機会があるか検討しています

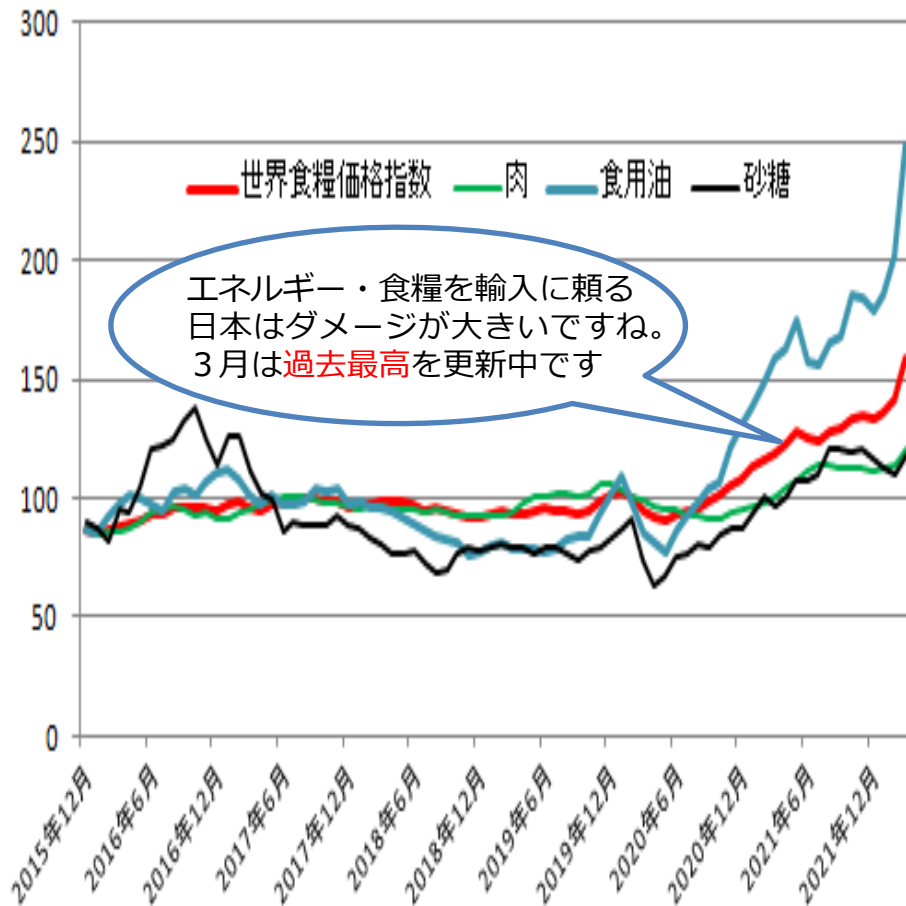


グレイ・リノ（灰色のサイ）とは、高い確率で大きな問題を引き起こすと考えられるにも関わらず、軽視されている事象のこと。それが起これば大きな値幅が出るため、オプション投資家に重要となる。特にPUT買いを仕掛けられる可能性や、破産もあり得るPUT売りを避けられる可能性が高くなる。



エネルギーだけでなく、食糧価格も急上昇 (P.4)

世界食糧価格指数 = 国連食糧農業機関 (FAO) が穀物、油脂、牛乳・乳製品、砂糖および食肉の国際価格をもとに食品全体の平均価格を指数化したもの。2002~04年を100とする。



出所) 国連食糧農業機関 (FAO)、2022年3月

Table A. Percent changes in CPI for All Urban Consumers (CPI-U): U.S. city average

	Seasonally adjusted changes from preceding month							Un-adjusted 12-mos. ended Mar. 2022
	Sep. 2021	Oct. 2021	Nov. 2021	Dec. 2021	Jan. 2022	Feb. 2022	Mar. 2022	
All items.....	0.4	0.9	0.7	0.6	0.6	0.8	1.2	8.5
Food.....	0.9	0.9	0.8	0.5	0.9	1.0	1.0	8.8
Food at home.....	1.2	0.9	0.9	0.4	1.0	1.4	1.5	10.0
Food away from home ¹	0.5	0.8	0.6	0.6	0.7	0.4	0.3	6.9
Energy.....	1.2	3.7	2.4	0.9	0.9	3.5	11.0	32.0
Energy commodities.....	1.2	4.7	4.2	1.3	-0.6	6.7	18.1	48.3
Gasoline (all types).....	1.1	4.6	4.5	1.3	-0.8	6.6	18.3	48.0
Fuel oil ¹	3.9	12.3	3.5	-2.4	9.5	7.7	22.3	70.1
Energy services.....	1.2	2.4	0.2	0.3	2.9	-0.4	1.8	13.5
Electricity.....	0.6	1.4	0.2	0.5	4.2	-1.1	2.2	11.1
Utility (piped) gas service.....	2.9	5.9	0.3	-0.3	-0.5	1.5	0.6	21.6
All items less food and energy.....	0.3	0.6	0.5	0.6	0.6	0.5	0.3	6.5
Commodities less food and energy.....	0.3	1.1	0.9	1.2	1.0	0.4	-0.4	11.7
New vehicles.....	1.3	1.3	1.2	1.2	0.0	0.3	0.2	12.5
Used cars and trucks.....	-0.5	2.5	2.4	3.3	1.5	-0.2	-3.8	35.3
Apparel.....	-0.7	0.6	0.7	1.1	1.1	0.7	0.6	6.8
Medical care commodities ¹	0.3	0.6	0.1	0.0	0.9	0.3	0.2	2.7
Services less energy services.....	0.2	0.4	0.4	0.3	0.4	0.5	0.6	4.7
Shelter.....	0.4	0.5	0.5	0.4	0.3	0.5	0.5	5.0
Transportation services.....	-1.0	0.2	0.7	0.0	1.0	1.4	2.0	7.7
Medical care services.....	0.2	0.4	0.3	0.3	0.6	0.1	0.6	2.9

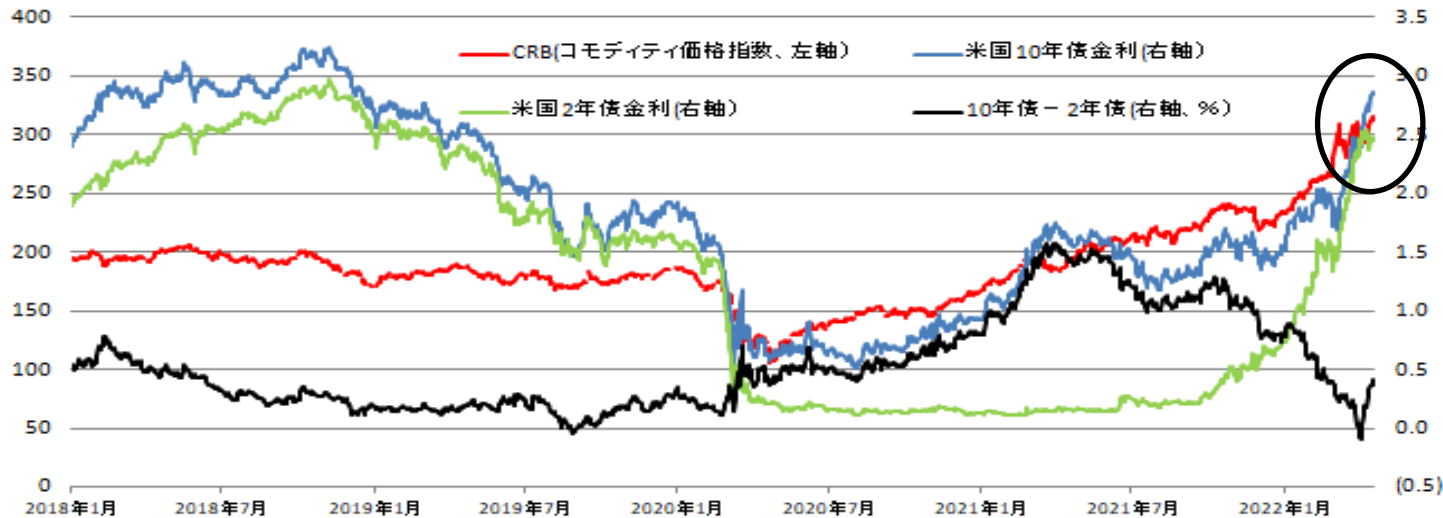
出所) U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS

特にガソリン価格に注目しています。米国は車社会ですので、ガソリン代と食料品の価格は家計に直結します。あまりに上昇してくると、バイデン政権への風当たりがさらに強くなり、中間選挙にも影響が出てくるでしょう



米国で利上げペースがかなり早まるか？ (P.5)

米10年債 (2.857%) ・ 2年債 (2.446%) 利回りの推移 (2022年4月18日)



米2年債はFF (フェドファンド) 金利上昇への思惑がかなり反映されていると考えています



出所)ブルームバーグより筆者作成 (CRB :315.95、2022年4月18日)

CME FedWatch (CME上場のFF金利先物から算出した22年12月14日時点のFF金利予測)

TARGET RATE (BPS)	PROBABILITY(%)			
	NOW*	1 DAY 14 4 2022	1 WEEK 11 4 2022	1 MONTH 18 3 2022
125-150	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
150-175	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%
175-200	0.1%	0.1%	0.0%	22.2%
200-225	3.2%	2.9%	2.2%	42.0%
225-250	26.1%	26.2%	18.0%	26.4%
250-275	44.4%	43.9%	40.3%	3.8%
275-300	22.6%	22.8%	30.0%	0.0%
300-325	3.6%	4.0%	8.6%	0.0%
325-350	0.1%	0.1%	0.9%	0.0%

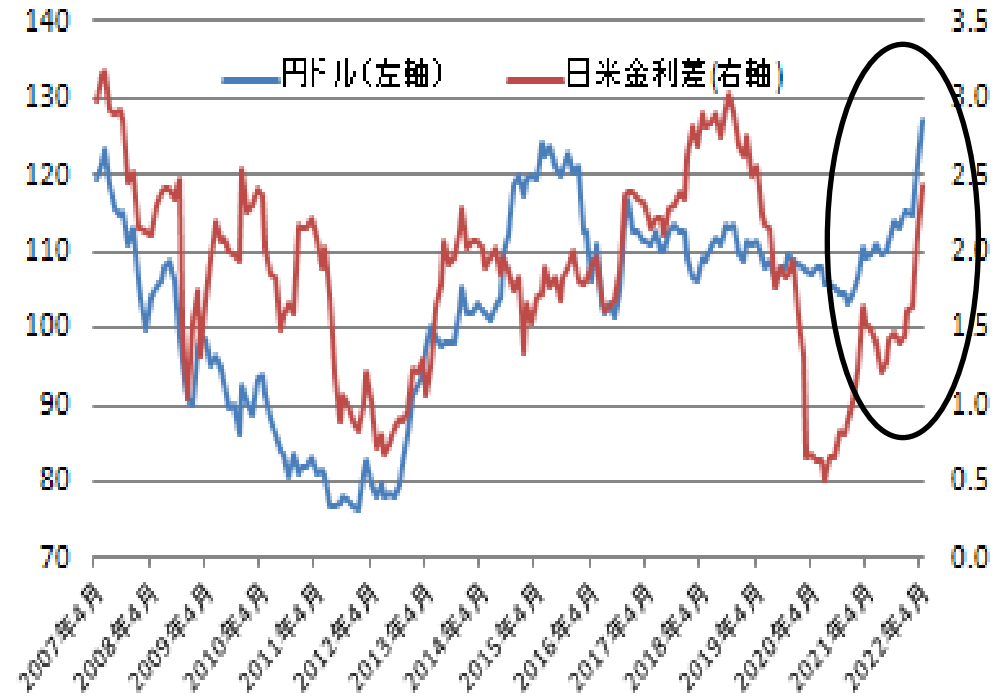
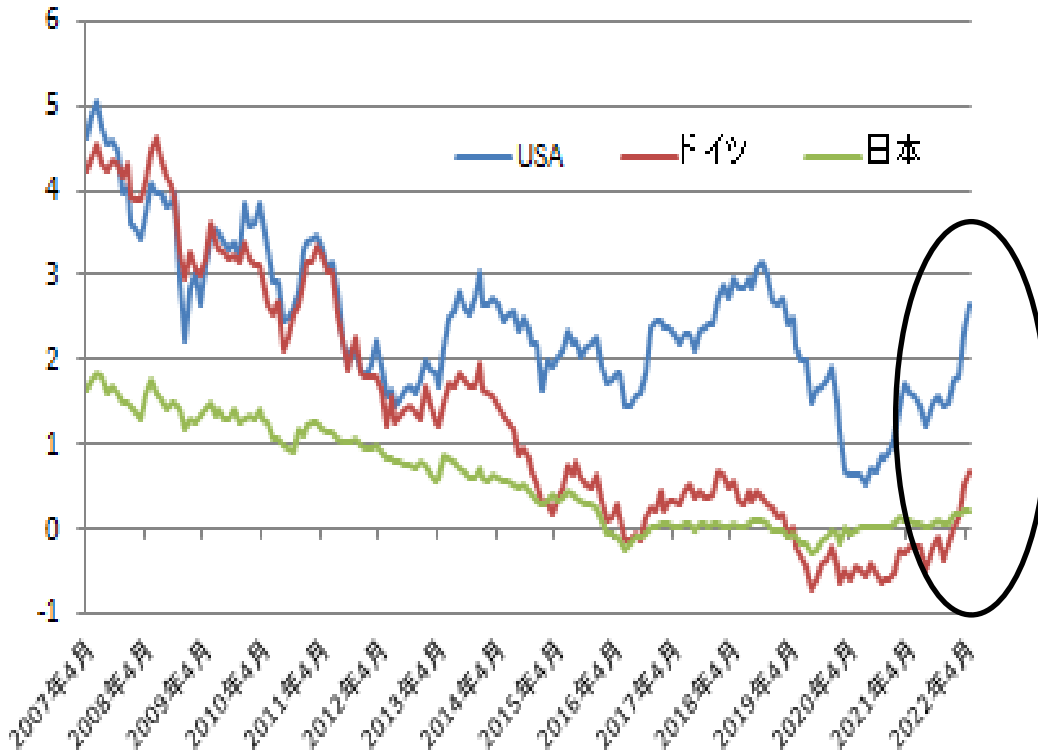
* Data as of 18 4 2022 06:21:34 CT

米国株については、金利との関係でもかなり株価が割高だと考えています。したがって、FF金利の見通しからまだまだ長期金利の上昇が予想できるときは、株式投資には慎重になるべきと考えています

出所)CME (2022年4月18日現在)



日米欧10年債の利回り、日米金利差と円ドルレート (P.6)



出所)ブルームバーグより筆者作成 (2022年4月18日現在、月次)

米国やドイツの長期金利が上昇局面にあるのに対し、日本の長期金利は横ばいです。このような状況では、金利差拡大がさらに続き、円が独歩安となる傾向は続くと考えています

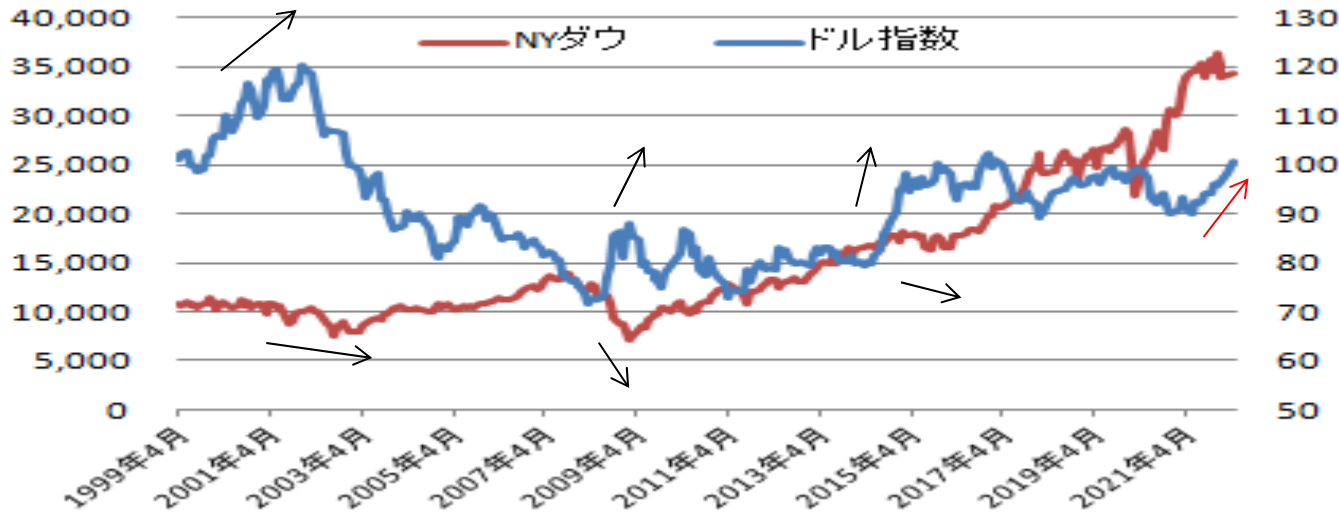


米国金利の上昇は米国CPIの上昇を反映しています。一方、日本では、黒田日銀の金融政策で、長期金利の上昇が抑えられている状況です。したがって、日本のCPI上昇に対するインフレ封じの政策がとれていないとも考えられます



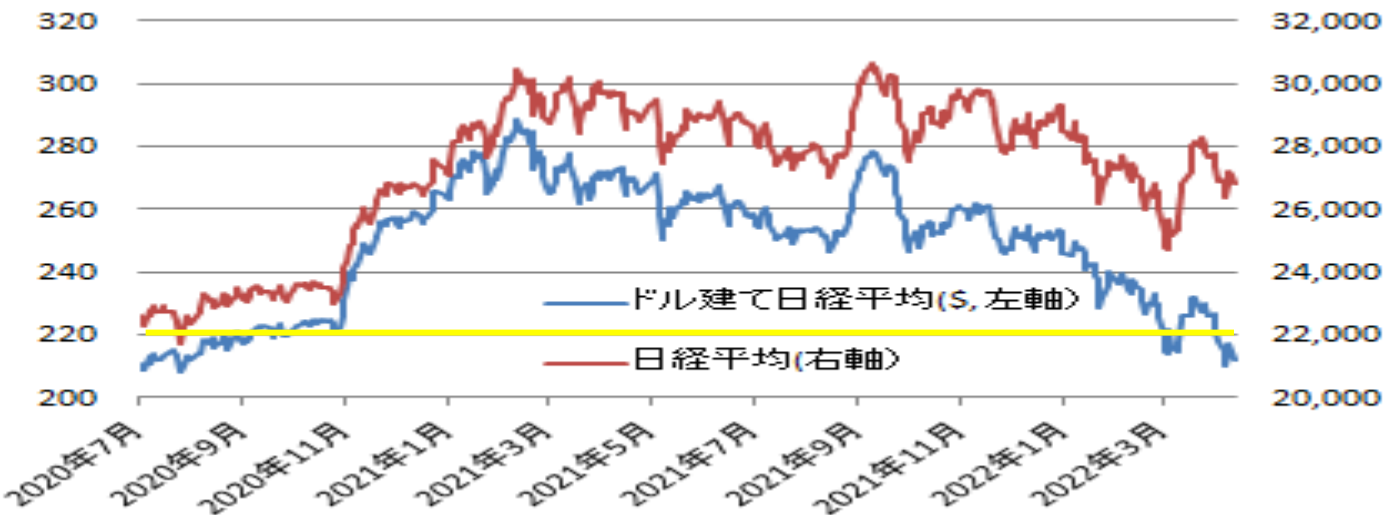
ドル高は米国株に逆風で、日本株には…… (P.7)

NYダウと米ドル指数の推移



現在、円安ドル高の進行で海外投資家（米ドル建て）から見た日経平均のレベルが、かなり下がっています。昨年末から4月18日までで見ると、日経平均は円建てでは6.9%の下落ですが、米ドル建てでは15.4%の下落です

出所)ブルームバーグより筆者作成 (ドル指数100.8:2022年4月18日)



ここには2面性があります。新たに日本株を買おうとする海外投資家には割安に見えます。一方、すでに日本株を持っている海外投資家のパフォーマンスは、非常に厳しい状況だということです

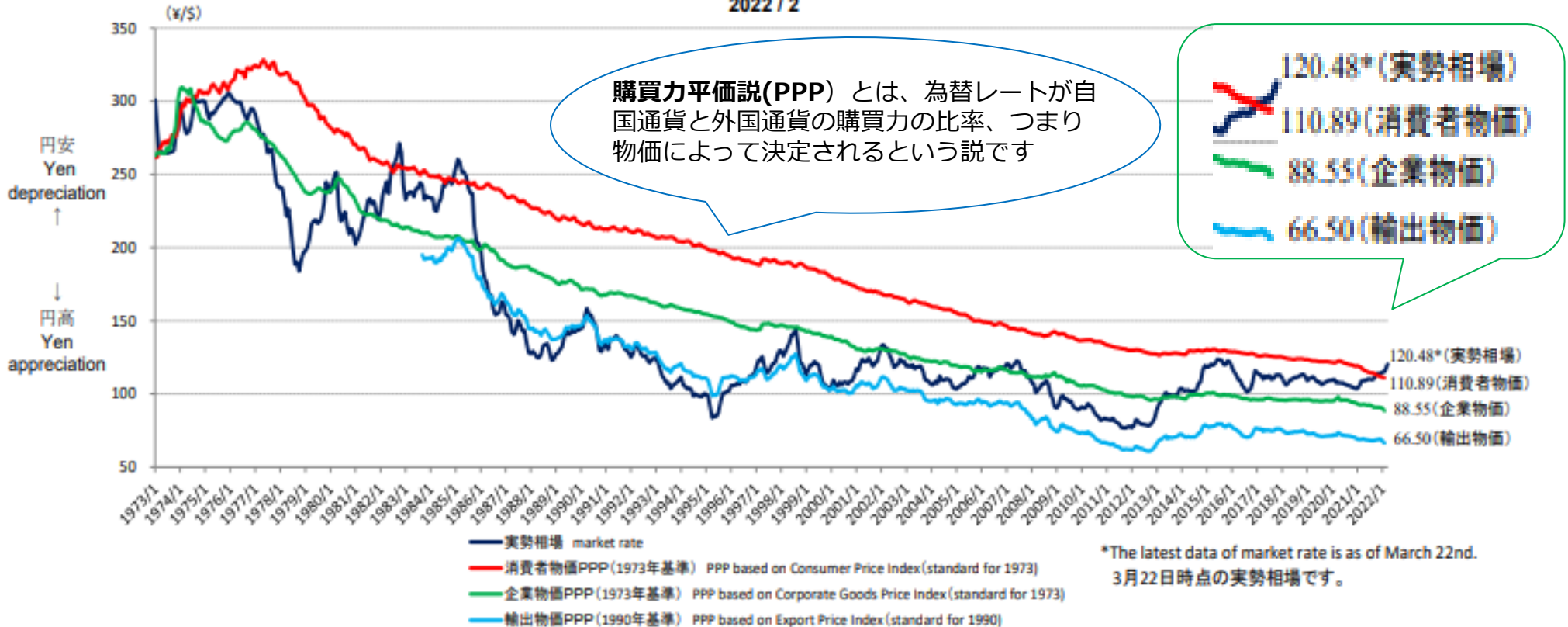
出所)ブルームバーグより筆者作成 (日経平均26799.71=\$211.57:2022年4月18日)



米CPI上昇は円高ドル安要因 (P.8)

iima 公益財団法人 国際通貨研究所

ドル円購買力平価と実勢相場
purchasing power parity and market rate / U.S. Dollar against Japanese Yen
2022 / 2



データ: 消費者物価, 日本 総務省, U.S. Department of Labor
 企業物価と輸出物価, 日銀, U.S. Department of Labor
 ドル円相場, 日銀
 消費者物価PPP, 企業物価PPPは1973年基準。
 輸出物価PPPについては、米国の現在の輸出物価指数が1973年まで連続して
 遡及できないようになったため、以前に遡及できた際にPPPと実勢相場との
 乖離が比較的小さかった1990年を基準年として算出した。

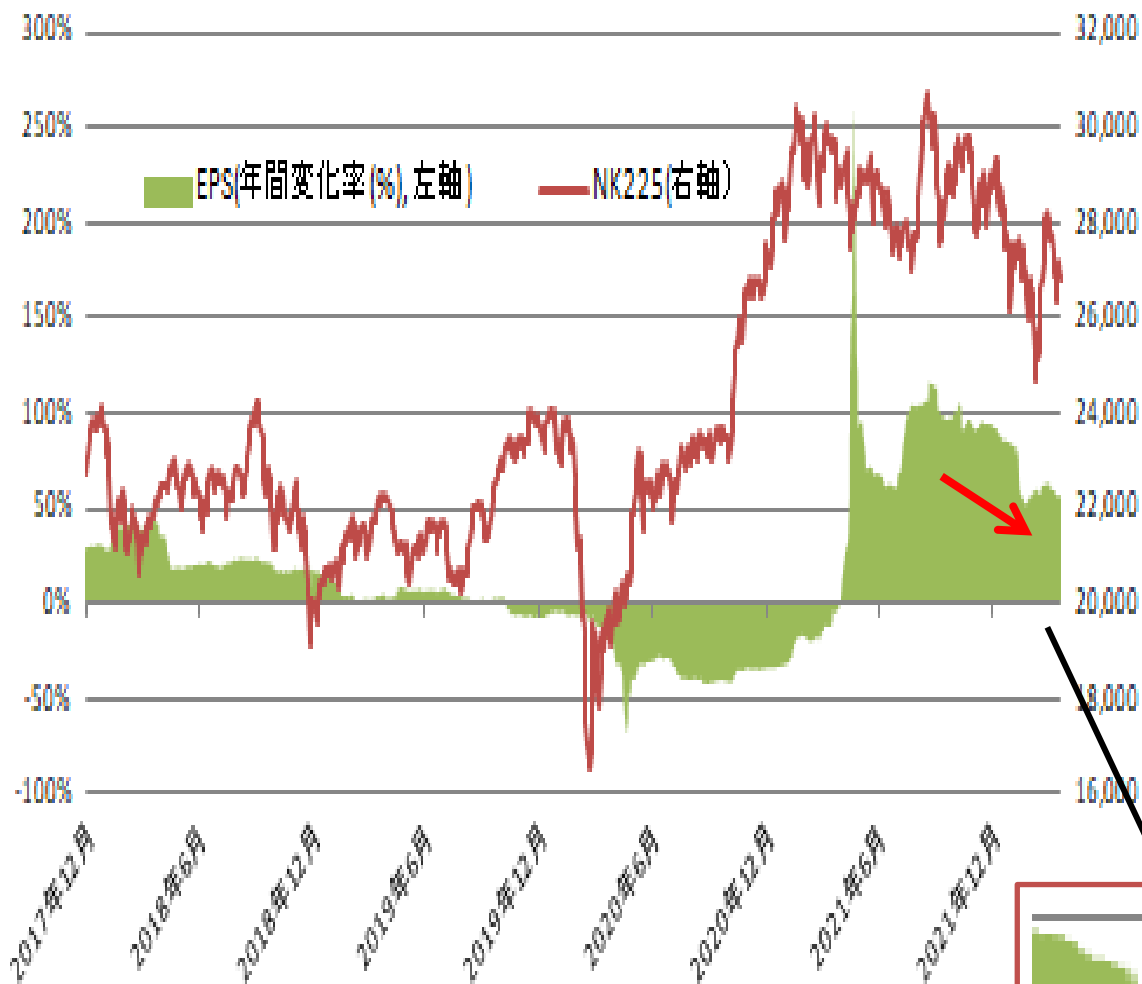
今まで円ドルはこのレンジの中で推移して
 いました。今回上限を超えてきたのは日本の
 後退を暗示しているのかもしれない

出所 & ©) 公共財団法人 国際通貨研究所

https://www.iima.or.jp/files/items/185/File/doll_yen.pdf



日本株の上昇要因と下落要因 (P.9)



出所) 日経新聞などより筆者作成 (2022年4月18日現在)

- 1) 米国金利上昇 → 円安
- 2) EPS年間変化率上昇
- 3) NT倍率の上昇

- 1) 米国金利上昇 → 米株安
- 2) ウクライナ問題、コロナ問題
- 3) HV、IVの上昇
- 4) NT倍率の下落
- 5) 円暴落
- 6) ロシア・デフォルト



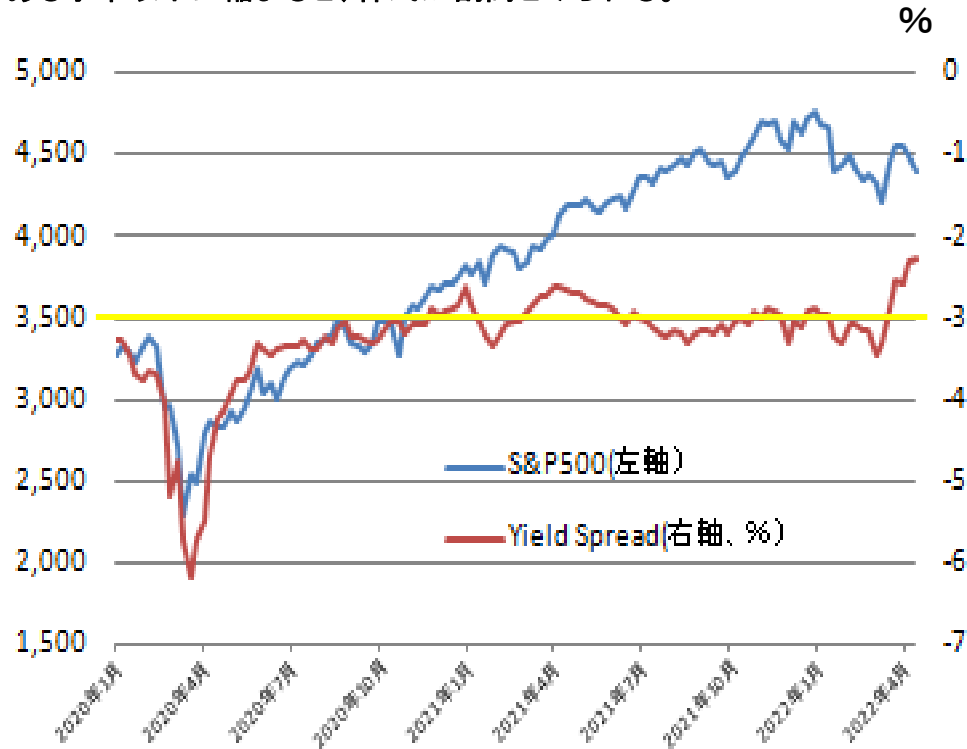
EPSの年間変化率が上昇に転じた一因は、円安を背景に輸出企業の業績見通しが上昇したことが挙げられるでしょう。ただし、直近では、また下落基調となってきています



金利上昇で米国株は米国債に対してさらに割高に (P.10)

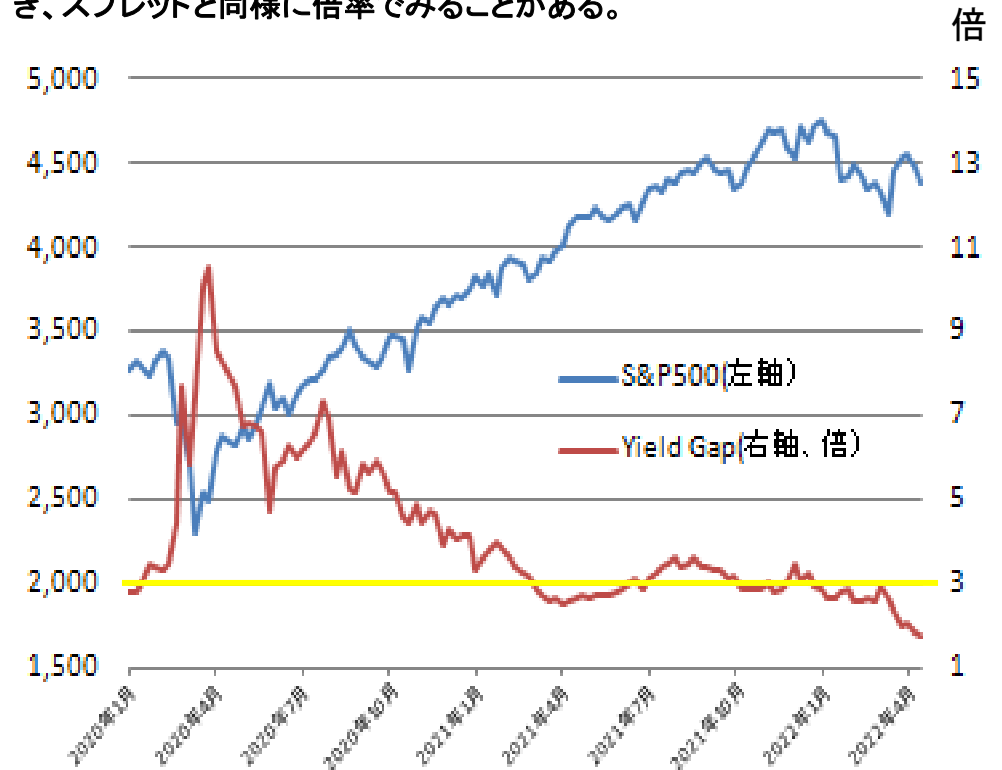
イールド・スプレッド (赤線)

米10年債とS&P500益利回りの差。その相対的な利回りが、ある水準以下に縮まると、株式が割高とみられる。



イールド・ギャップ (赤線)

米10年債とS&P500益利回りの倍率。複利効果を考えると、スプレッドと同様に倍率でみることがある。



イールドスプレッド: ▲2.27%

イールドギャップ : 1.80倍

予想益利回り : 5.10%

出所)ブルームバーグより筆者作成 (2022年4月14日現在)

年金など長期投資の米国の機関投資家からすれば、インフレ率の高いものの10年債の3%近い利回りは、リスクのある株式よりも魅力的に映っていると考えています。したがって、さらなる金利上昇局面では、債券買い・株式売りの資金シフトが起こり始めてくると考えています

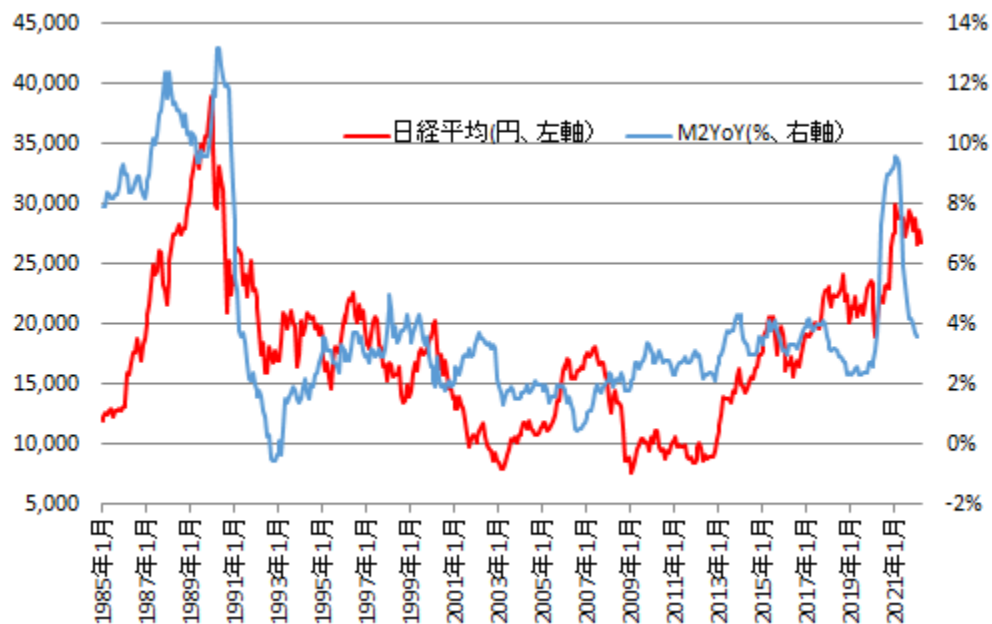


日米マネーの動き (P.11)

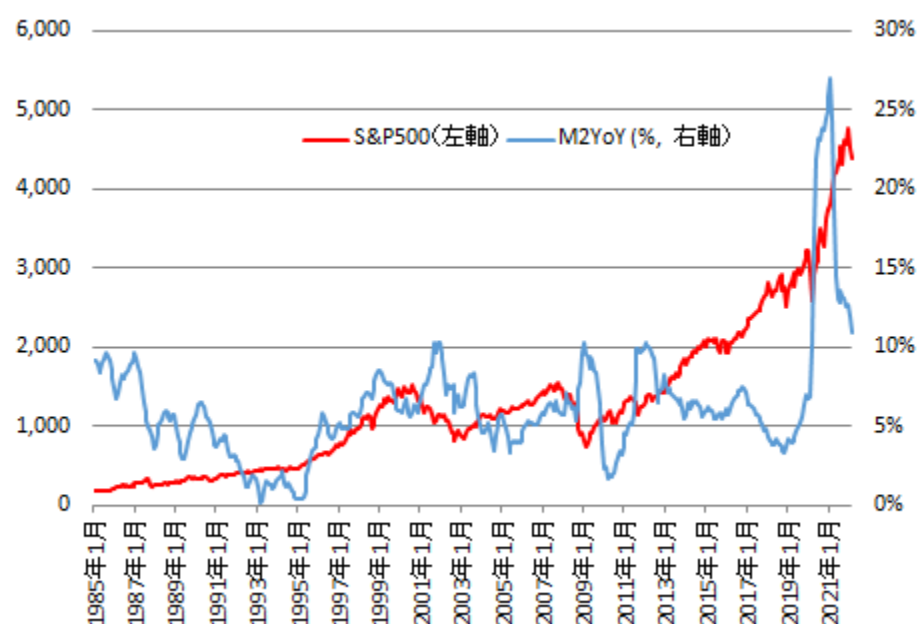
M2 (通貨供給量:マネーストック) = 現金通貨 + 預金通貨 + 準通貨 (定期預金など) + CD (譲渡性預金)

※預金通貨・準通貨・CDの発行者は国内銀行など

<日本>



<米国>



出所) 日本銀行、FRB、ブルームバーグ等より筆者作成 (日本:2022年3月、米国2022年2月)

現在のカネ余りの状況を毎月確認していくのは非常に重要だと考えています。日本はかなり伸び率が鈍化しているのに対し、米国ではまだまだ高水準です。今後は、米国がどの程度のスピードで鈍化してくるかに注目しています





信用倍率が再上昇 (P.12)

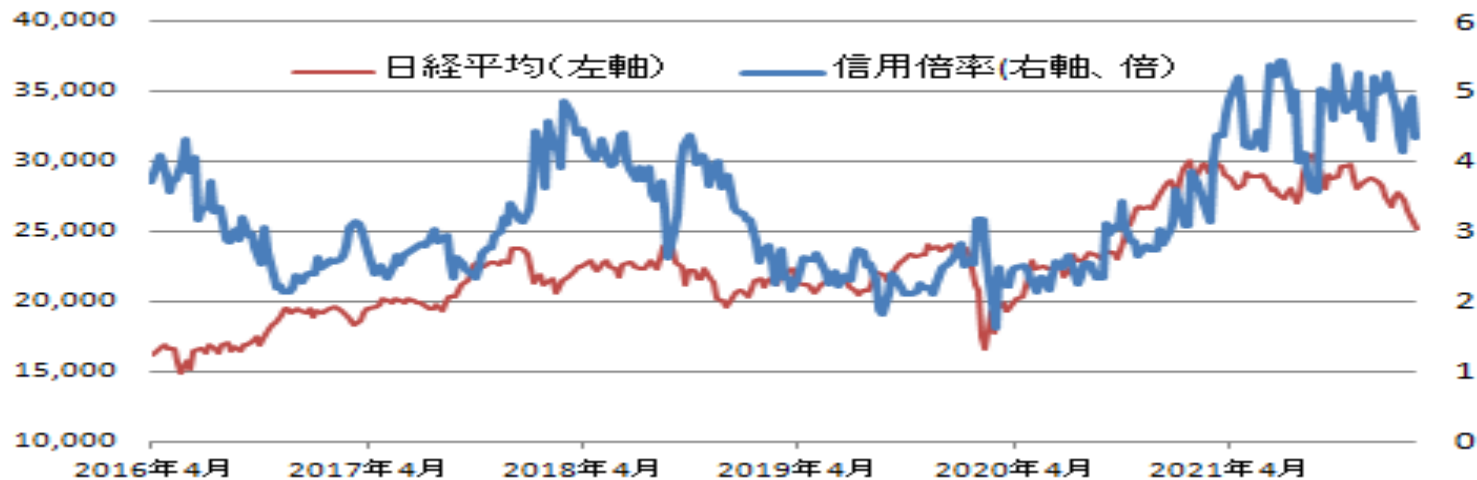
NT倍率(14.25) = 日経平均 ÷ TOPIX (東証株価指数) (2022年4月18日現在)



通信講座ではNT倍率から日本株の方向性を探るだけでなく、ミニ225先物とミニTOPIX先物で割高なほうを売り、割安なほうを買うスプレッド取引を番外編として紹介することもあります



信用倍率(4.64倍) = 信用買い残 (3.07兆円) ÷ 信用売り残 (0.66兆円)

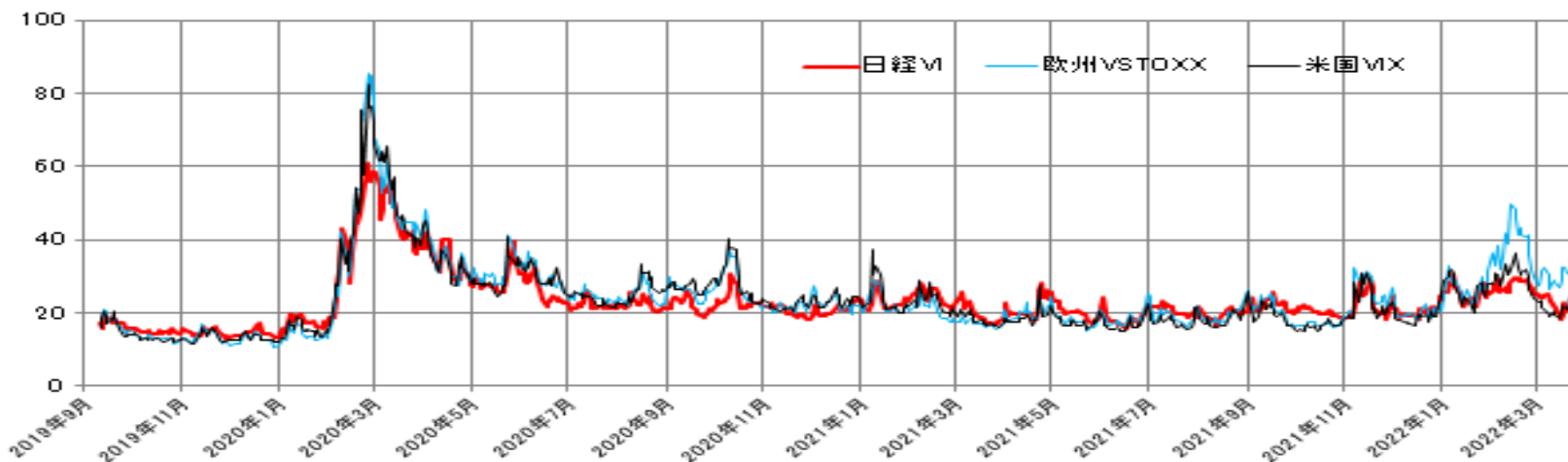


信用残高は、毎週第2営業日の発表です。3月25日に3.02倍まで下落していた信用倍率は4月8日には4.64倍まで急反発しています

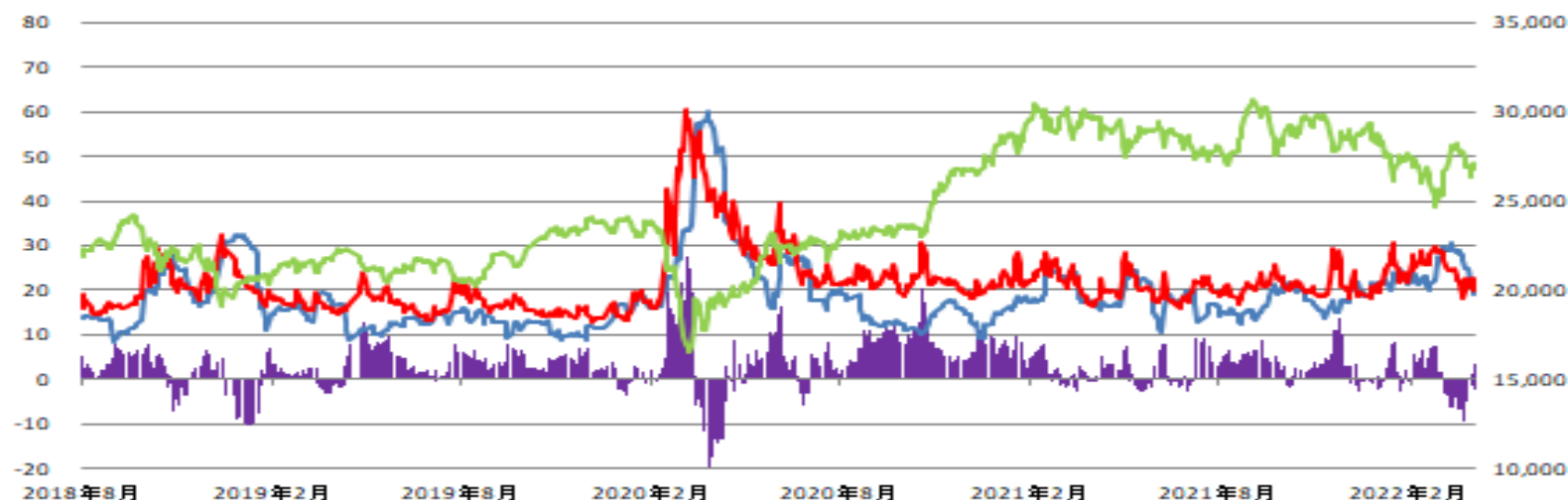
出所) 日経新聞などより筆者作成 (2022年4月8日現在)

ボラティリティは相場の状況を語り掛けてくれる情報源 (P.13)

日欧米のIV : 日本 = 日経VI : 22.72、 欧州 = VSTOXX : 26.75、 米国 = VIX指数 : 22.17 (2022年4月18日)



日経平均 (緑、右軸)、HV (青、左軸)、IV = 日経VI (赤、左軸)、IV - HV (紫棒、左軸)



ボラティリティには過去の指数のデータから計算したヒストリカル・ボラティリティ (HV) とそのオプション価格から逆算したインプライド・ボラティリティ (IV) があり、それぞれが、また組み合わせで相場状況を伝えてくれます

日経225オプションの魅力とは (P.14)

1. 毎月(毎週金曜日)決済日を迎える

- ◎ 毎月(毎週金曜日)を給料日とできる可能性が高い。
- ◎ 決済後に残るのは、現金。

※ 毎月第二金曜日(原則)に月次OPの決済日があり、それ以外の金曜日(原則)に週次OPの決済日がある

2. 収益の計算が立つ

- ▲ 株式やFXでは、いつ、いくら儲かるのかがわからない。

3. 取引所に上場されている

- ◎ 証拠金が保全されている。
- ◎ 流動性がある(通常時)。
- ◎ 個別銘柄による影響が少ない。

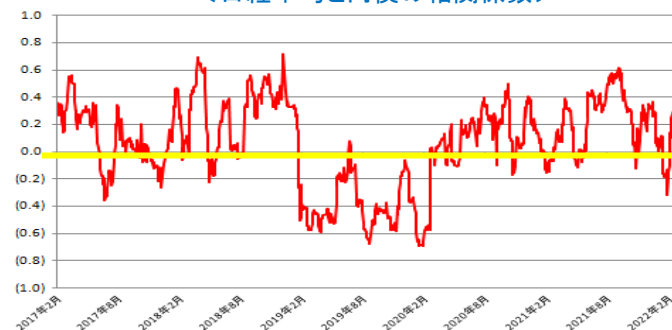
- ▲ 確定申告が必要。

分散投資・長期投資の問題点

- ★ いつ儲かるかわからない
- ★ 資産配分の難しさ

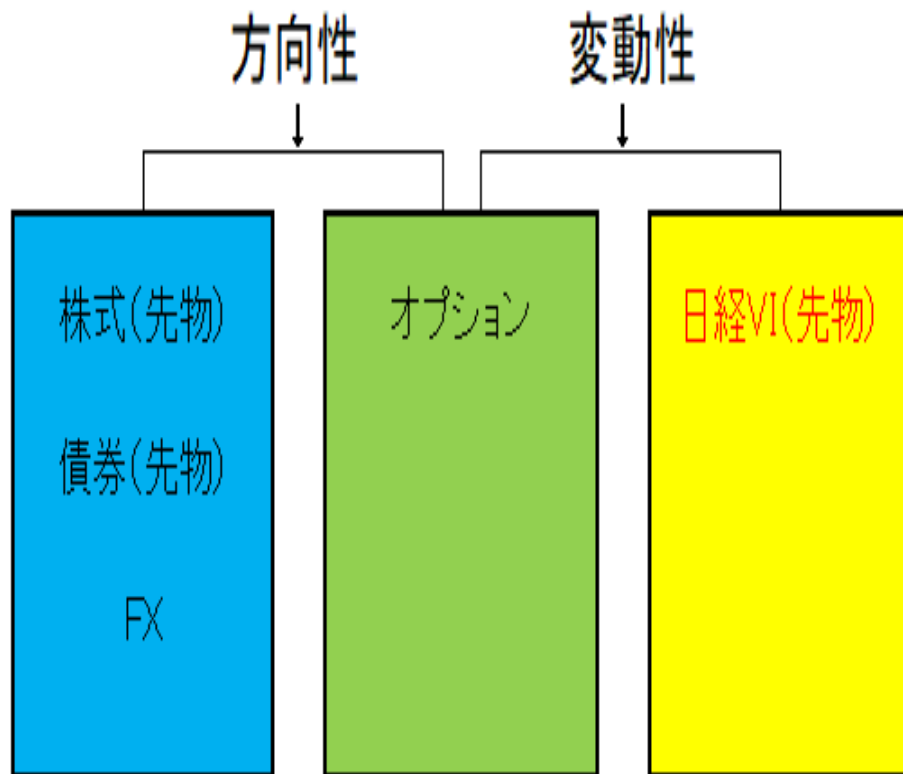
期待収益率、期待リスク、相関係数は不安定

<日経平均と円債の相関係数>



出所)ブルームバーグより、筆者作成

各種金融商品の分類とOP価格の変動要因 (P.15)



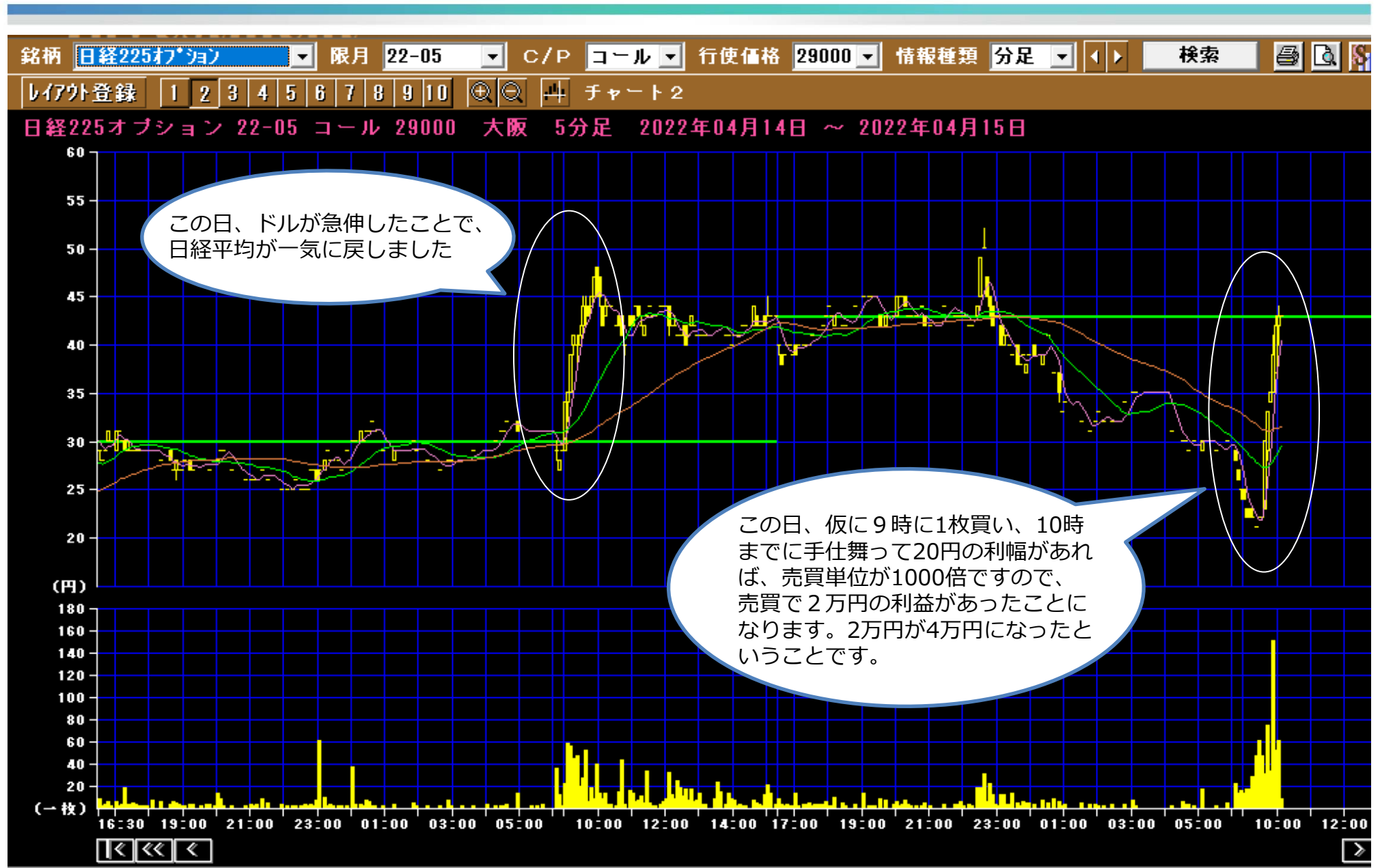
相場は上がったり下がったりします。その激しさを変動性と言います。基本的には年率換算した変動率 (%) で見ていきます



		CALL	PUT
< 日経平均株価 >	上昇すると	↑	↓
	下落すると	↓	↑
< 行使価格 >	高くすると	↓	↑
	低くすると	↑	↓
< ボラティリティ >	上昇すると	↑	↑
	下落すると	↓	↓
< SQまでの日数 >	長くすると	↑	↑
	短くすると	↓	↓
< 配当利回り >	高くなると	↓	↑
	低くなると	↑	↓
< 金利 >	上がると	↑	↓
	下がると	↓	↑

オプションは相場の方向性だけでなく、相場が荒れるかどうかの変動性でも勝負ができる現物株やFXにはない金融商品です

例) 5月限29000CALL買い (P.16)



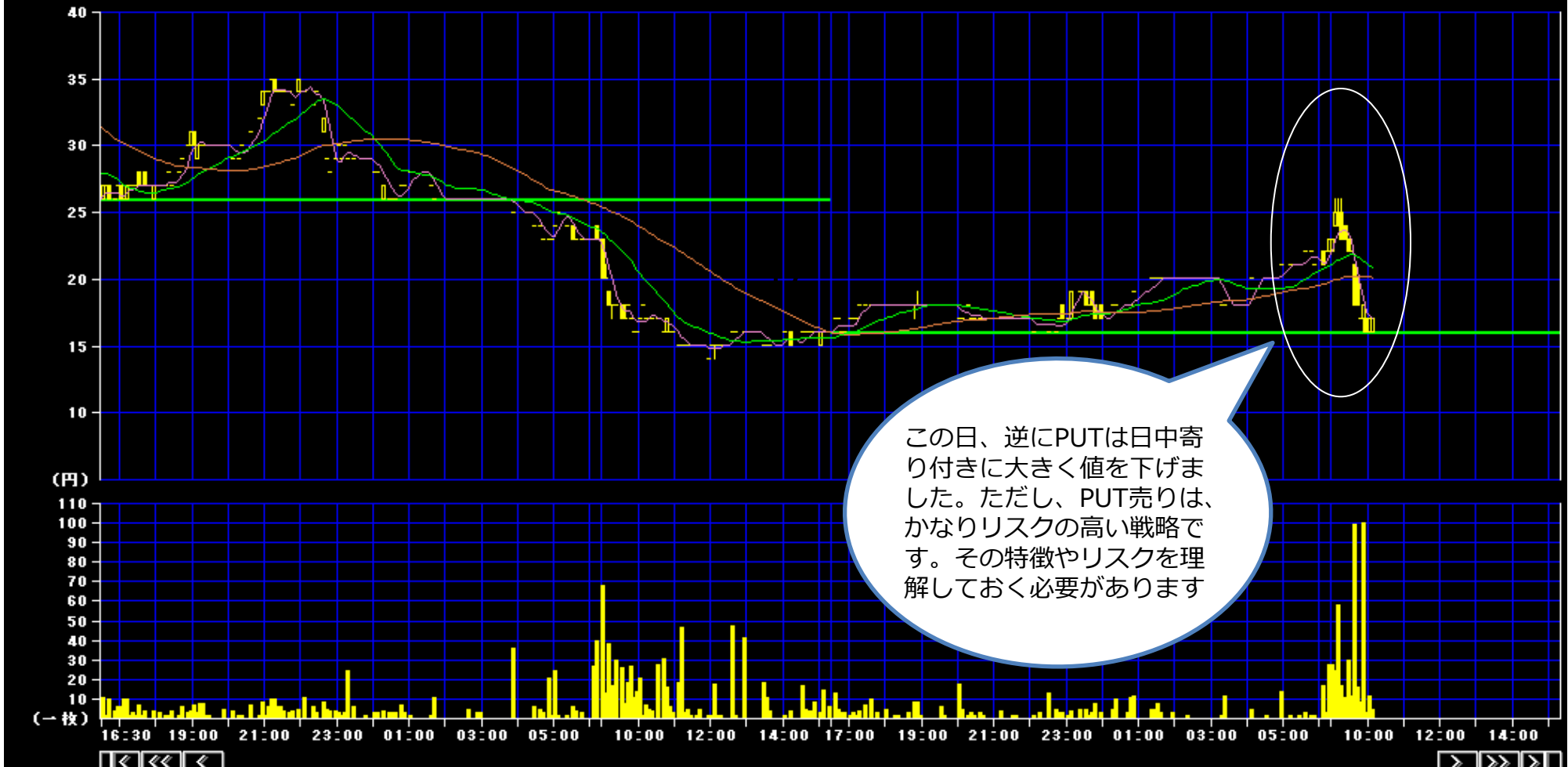
例) 5月限23000PUT売り (P.17)

先物オプションチャート - 国内株式

銘柄 日経225オプ^{ソノ} 限月 22-05 C/P プット 行使価格 23000 情報種類 分足 検索

レアウト登録 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 拡大 縮小 上 下 チャート2

日経225オプション 22-05 プット 23000 大阪 5分足 2022年04月14日 ~ 2022年04月15日



OPTレードで大事な3つの視点 (P.18)



相場は生き物

取引ルール of 把握

私はOPTレードの本質を次のようにみています——「**確率**を考えながら**本質的価値**（その商品が本来持っている**経済的価値**）を見極める**心理ゲーム**である」

確率

- HVとIV
- 分布
- 移動平均(乖離)

経済合理性

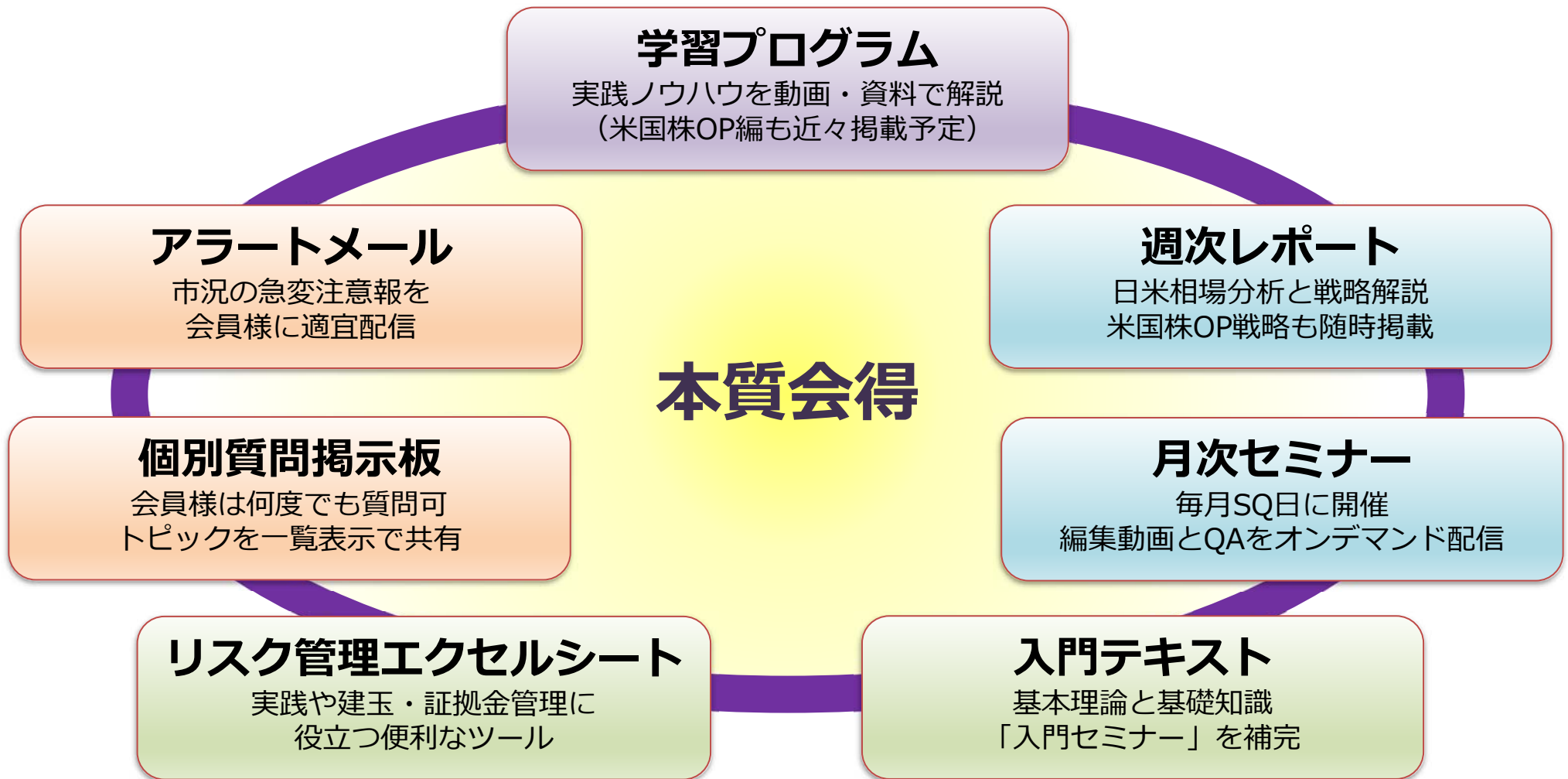
- **本質的価値**
- 経済理論

心理

- 需給
- 人間の行動
- フラクタルとカオス

証拠金管理を徹底して、負けない運用を → **すぐ逃げる**

OP売坊戦略コース「7つのコンテンツで本質会得をサポート」(P.19)



入門セミナーは「第一歩」として重要なので編集版を会員様ページで視聴できるようにしてあります。さらに、毎月のラジオ出演（メルマガ）やブログとツイッターで情報（材料）をご提供しています



新規会員様の受講期間は6カ月です。その後も継続会員様になっていただければ引き続きご利用いただけます

OP売場の重要視しているもの (P.20)

確率、勝率、収益率
パターン分析(時系列、分布)
資金管理、リスク管理
簡単、シンプル

次回は**5月25日**に出演させていただく予定です。本資料は番組HPまたはオプション倶楽部HP (optionclub.net) から無料メルマガ「**グレイ・リノ通信**」にご登録いただくと取得できます。メルマガでは、この放送をさらに楽しんでいただくための**補足Q&A**などの情報を配信しておりますので、ぜひぜひお気軽にご登録ください！



オプション倶楽部



最後までご清聴、誠にありがとうございました。

講師ブログ『実践日経オプション教室』

<https://www.jissennkop.blog.fc2.com>

講師ツイッター『OP売坊@OP49431790』

<https://twitter.com/OP49431790>

Copyright © 2019–2022日経OP売坊

All rights reserved. This report is for authorized recipients only and not for public distribution.